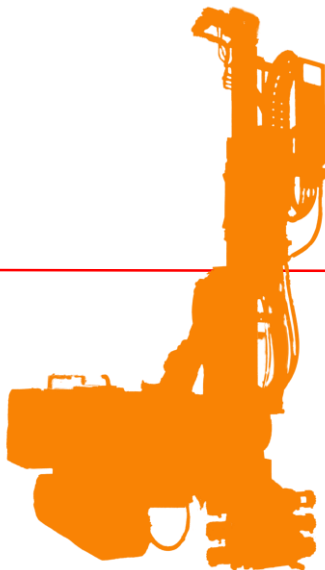


2019年（平成31年）3月期 決算説明



2019年5月24日

鉦研工業株式会社

(単位:百万円)

	2019年3月期公表値			実績値	
	2018-4-26 公表(A)	2018-10-25 修正(B)	増減 (B)-(A)	2019-5-17 発表(C)	増減 (C)-(B)
売上高	7,980	7,100	△880	7,137	37
営業利益	420	200	△220	272	72
経常利益	410	200	△210	267	67
当期純利益	320	150	△170	179	29
1株当たり当期純利益	35円69銭	16円73銭	△18円96銭	20円04銭	3円31銭
1株当たり配当金	6円	6円	—	6円	—

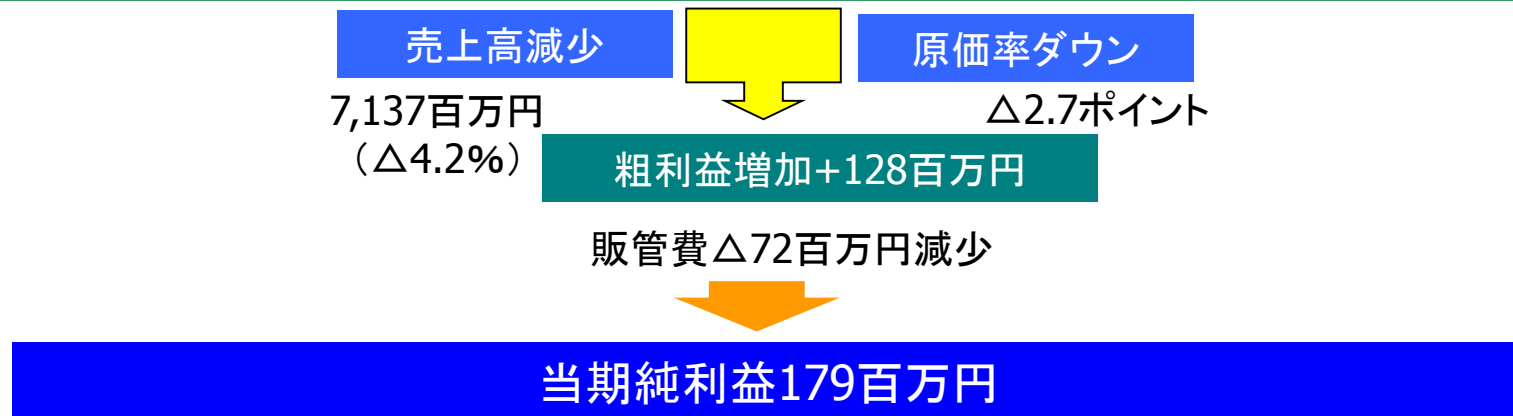
【修正業績予想と実績との差異理由(C)-(B)】

- ・売上高は、工事施工関連において連結子会社が手掛ける大型アンカー工事が期中で完工出来たことにより増額
- ・利益についても同工事の工期管理・原価管理が予想を上回る成果を出したことにより増益

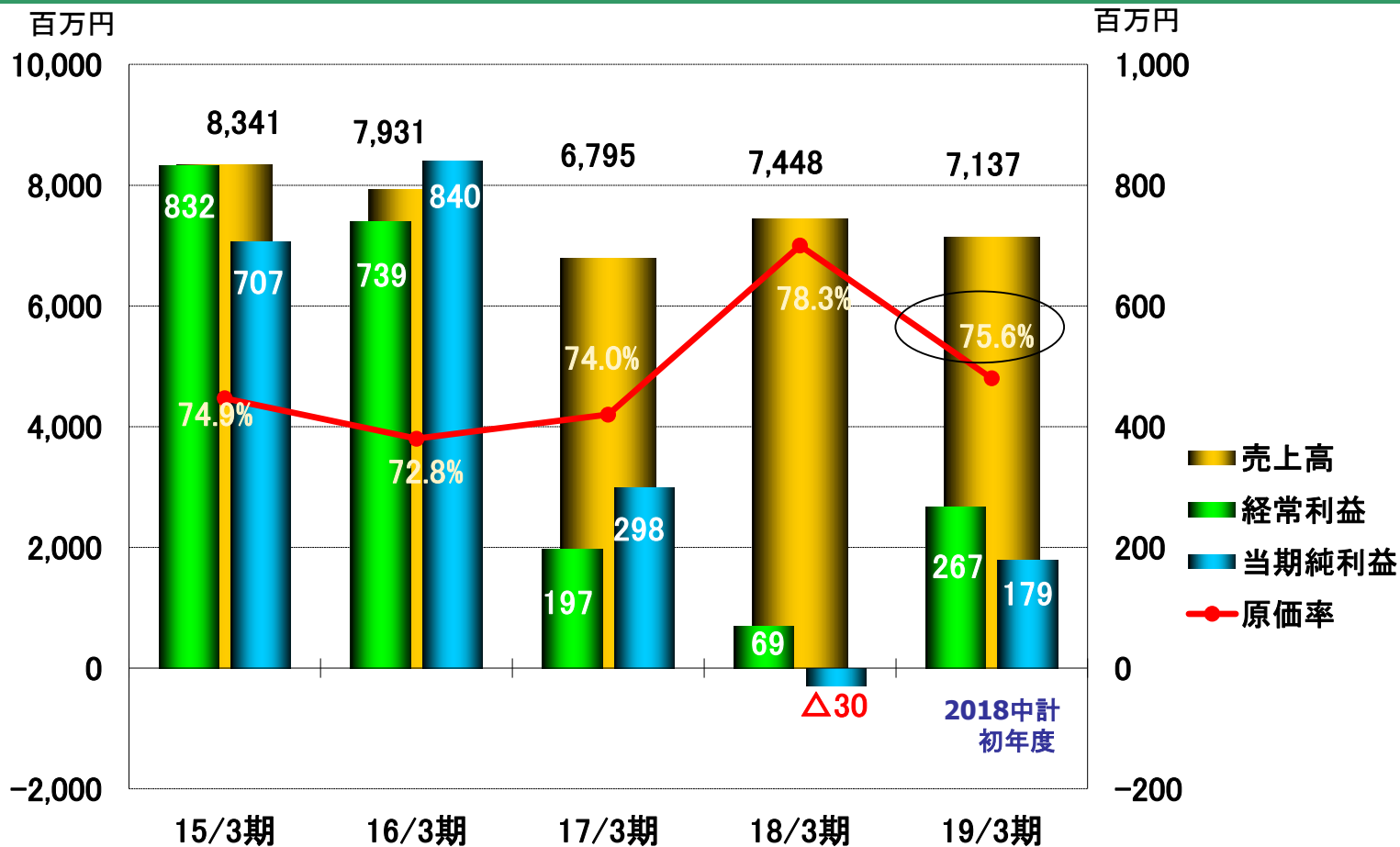
決算の概要(前期比較)

(単位:百万円)

	連 結			個 別		
	18/3期	19/3期	増 減	18/3期	19/3期	増 減
受注高	7,520	7,383	△136	6,689	6,560	△129
売上高	7,448	7,137	△311	6,364	6,165	△199
営業利益	71	272	201	△43	131	175
経常利益	69	267	197	11	125	114
当期純利益	△30	179	209	△44	87	131
	18/3期	19/3期	増 減	18/3期	19/3期	増 減
総資産	7,784	8,011	226	7,410	7,512	101
有利子負債	1,210	1,108	△102	1,210	1,058	△152
自己資本 (自己資本比率)	3,451 (44.3%)	3,564 (44.5%)	113 (0.2p)	3,366 (45.4%)	3,408 (45.4%)	42 (0.0p)



- ◆ 売上高は7,137百万円、前期比 $\Delta 311$ 百万円減少
 ～ボーリング機器はボーリングマシン本体の売上減少を部商品でカバーし、5百万円増と、ほぼ前期並の売上高(3,917百万円)
 ～工事施工の完工高はトンネル先進調査工事、温泉工事が好調であったが、前期には特殊大型工事(サブドレイン工事)があったため、比較すると316百万円減少(3,220百万円)
- ◆ 原価率は75.6%、前期の特機高原価対策も奏功し、 $\Delta 2.7$ ポイント減少で粗利益128百万円増加
- ◆ 販管費は、研究開発費と人件費で減少(前期比72百万円減)
- ◆ 結果、営業利益272百万円、経常利益267百万円、当期純利益は179百万円計上
- ◆ 営業活動によるキャッシュ・フローは152百万円の資金収入



(単位:百万円)

□前期比較の連結損益計算書

各項目について少し詳細に比較

売上高減少ではあったが、原価率改善及び販管費等の固定費削減効果により経常利益は282.9%の増加。

法人税住民税は経常利益増加に伴い35百万円増加したが、繰延税金資産の回収可能スケジューリングにおける将来減算一時差異増により法人税等調整額は前期は取崩しから当期は上積みとなり結果、前期最終赤字は当期大幅黒字化へ転換した。

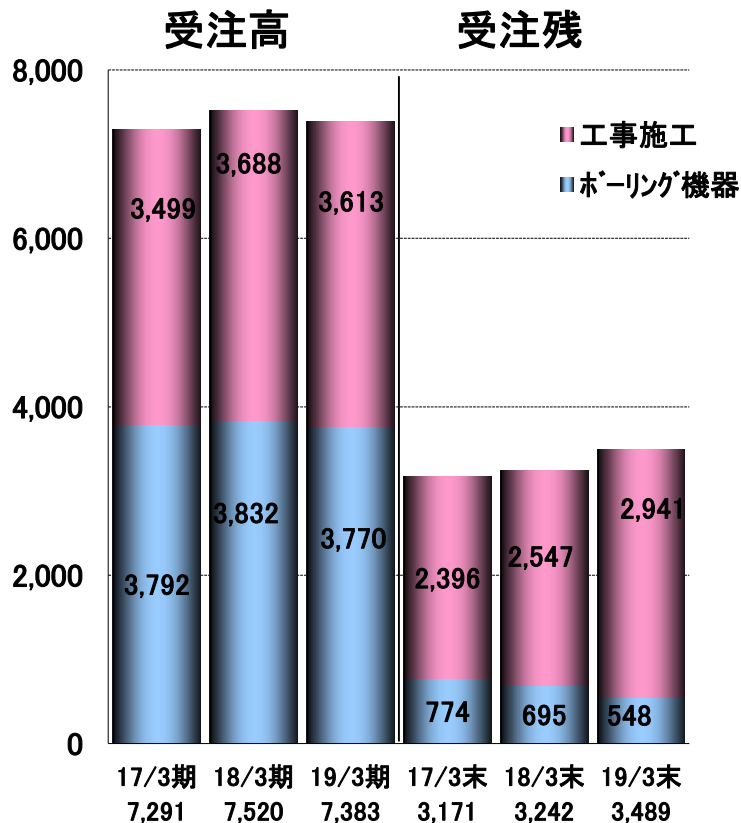
	18/3期	19/3期	前期比増減	
売上高	7,448	7,137	△311	△4.2%
売上原価 (原価率)	5,833 (78.3%)	5,393 (75.6%)	△439 (△2.7p)	△7.5%
売上総利益	1,615	1,743	128	7.9%
販売費管理費	1,544	1,471	△72	△4.7%
営業利益	71	272	201	281.6%
営業外損益	△1	△5	△3	—
経常利益	69	267	197	282.9%
法人税住民税	54	90	35	65.2%
法人税等調整額	39	△9	△49	—
非支配株主利益	5	7	1	23.5%
当期純利益	△30	179	209	—

□ 受注高は7,383百万円。リニア関連工事受注の遅れにより、前期比△136百万円減少

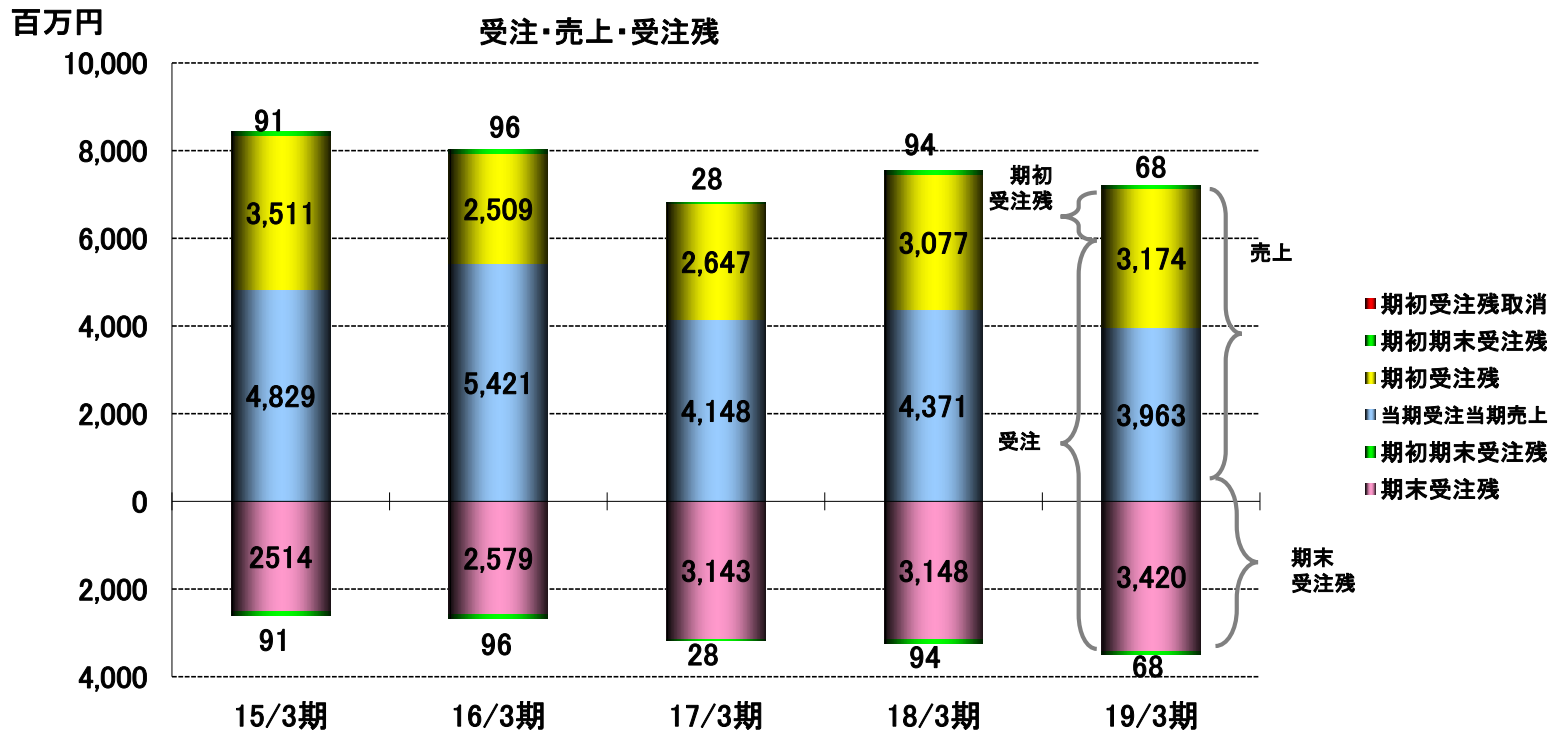
～ ボーリング機器: 3,770百万円(△61百万円減)
 特機とツールスなどの部商品は増加したが、国内・海外ともにボーリングマシン本体の受注が減少。地域別では国内は311百万円増加したが、海外(中国、韓国)向けの新型RPD機受注遅れにより△373百万円減少

～ 工事施工: 3,613百万円(△74百万円減)
 国内は、トンネル先進調査工事、温泉掘削工事の受注は好調だが、前期比較では特殊大型工事(福島原発サブドレイン工事)があったため減少。海外はキルギス調査工事を受注

□ 19/3末受注残は3,489百万円。前期末比246百万円増。工事施工の国内受注残が大幅増加(458百万円増)



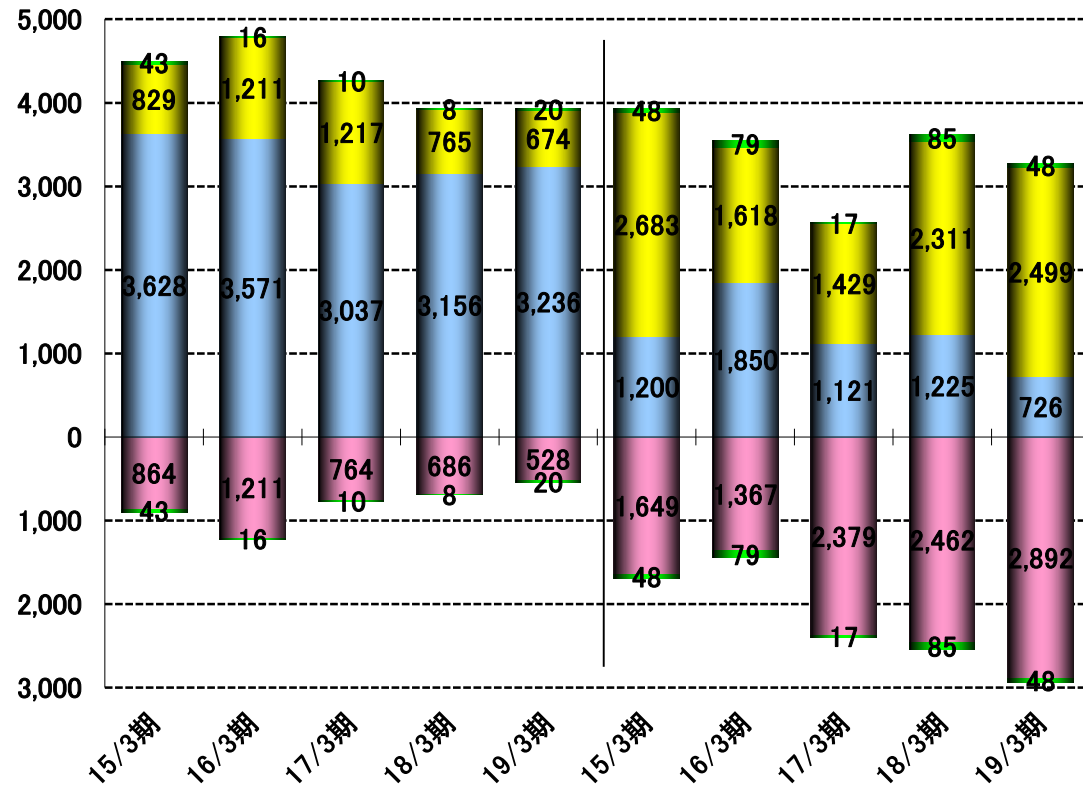
- 期初受注残3,242百万円のうち、3,174百万円(98%)が当期売上に寄与
～ 期中受注高7,383百万円のうち、3,963百万円(53%)が当期に売上計上
- 期末受注残は3,489百万円(うち当期受注分3,420百万円、期初分の繰越は68百万円)



百万円

ボーリング機器

工事施工



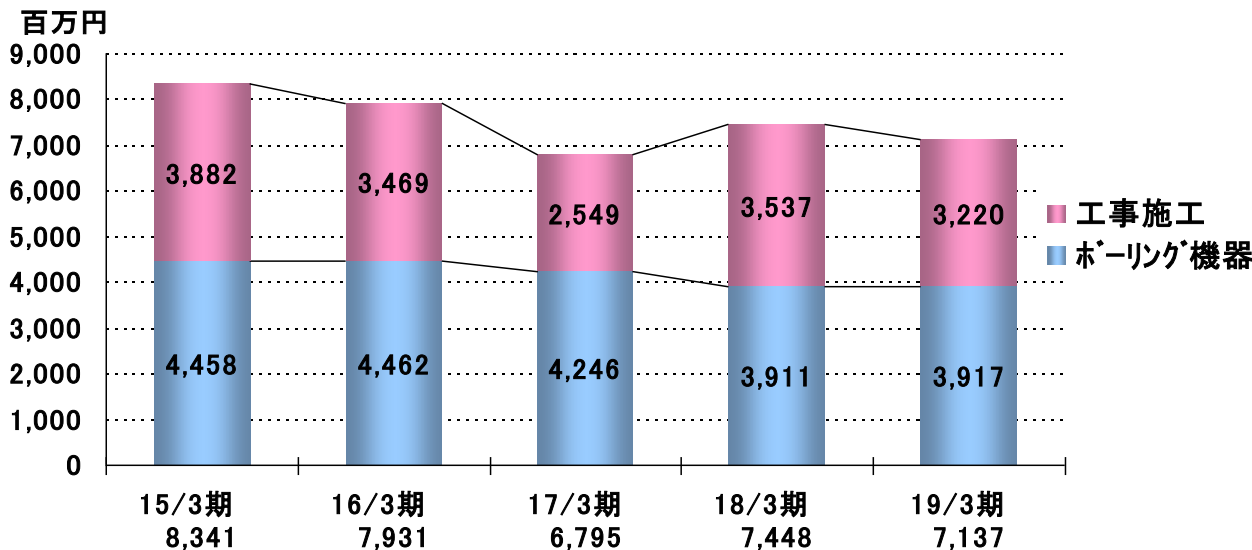
		期初受注残	当期受注	当期売上	期末受注残
ボーリング	国内	426	3,593	3,502	517
	海外	268	176	414	30
	合計	695	3,770	3,917	548
工事施工	国内	2,481	3,579	3,120	2,940
	海外	66	34	99	0
	合計	2,547	3,613	3,220	2,941
合計	国内	2,908	7,172	6,622	3,458
	海外	334	211	514	31
		3,242	7,383	7,137	3,489

□ ホーリング機器3,917百万円、前期比5百万円増

～国内では小口径管推進機や電柱固定式試験装置などの本体が、海外では中国向けの特機(人命救済機FS-120CZ 3号機)の大型ボーリングマシンの出荷売上があったが、RPD標準機が減少。代わりに部商品の売上が伸び、結果、前期とほぼ同額となる。

□ 工事施工3,220百万円、前期比△316百万円減

～国内では、トンネル先進調査ボーリング工事、温泉工事が好調、海外工事ではJVのODAベナン工事が竣工したが、前期にはサブドレイン大型工事があったため、比較すると完工高は減少。

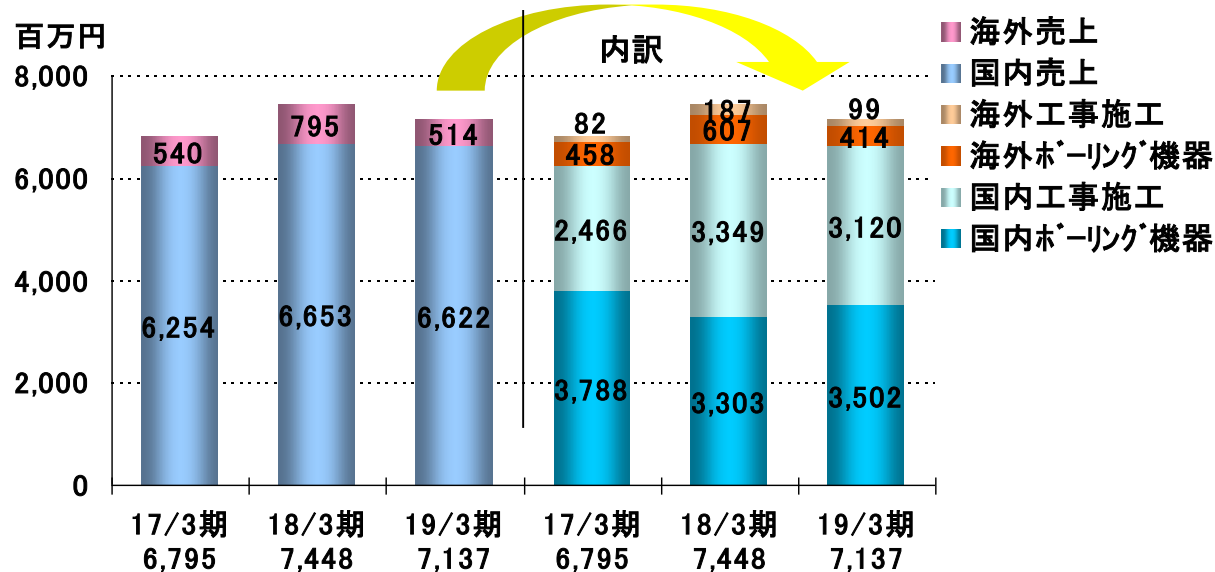


海外売上高…前期比35.3%減

□ 海外売上は前期比△280百万円減の514百万円

～ ボーリング機器は、中国向けに特機(人命救済機FS-120CZ 3号機)などのボーリングマシン本体の出荷売上はありましたが、RPD新型機の製作遅れにより、韓国を含めて次期へ繰延べされ、前期比△193百万円減の414百万円。ミャンマーに開設したヤンゴン支店は閉鎖。

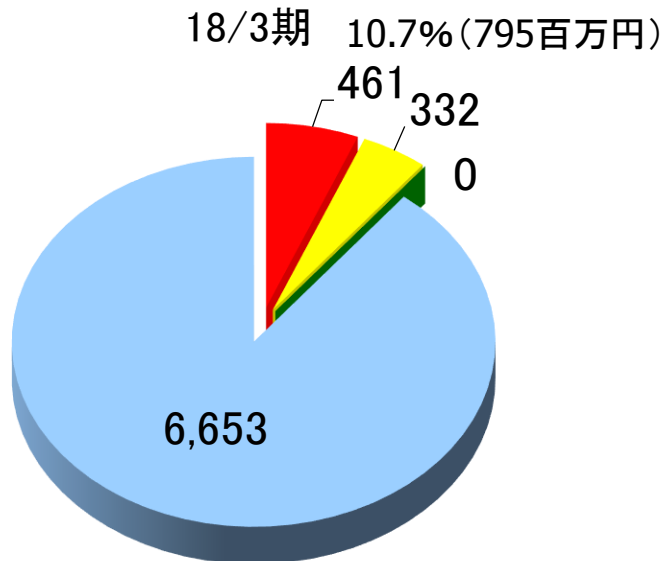
～ 工事施工は、他社とのJV工事によるベナン工事(3ヶ年)が竣工。キルギスにて調査工事を当期より施工。結果、前期比△87百万円減の99百万円の完工高



(18年3月期の主な輸出国)

- アジア(6.2%) : 中国、パキスタン、ミャンマー
- アフリカ(4.5%) : ベナン、マリ
- その他(0.0%) : ボリビア

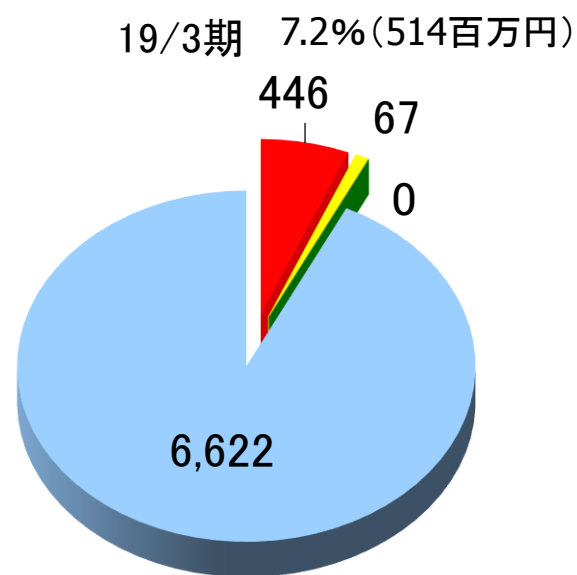
※中国はRPD-180CBR機ほか パキスタン及びミャンマーはODA水井戸機、ベナンはJV水井戸給水塔工事



(19年3月期の主な輸出国)

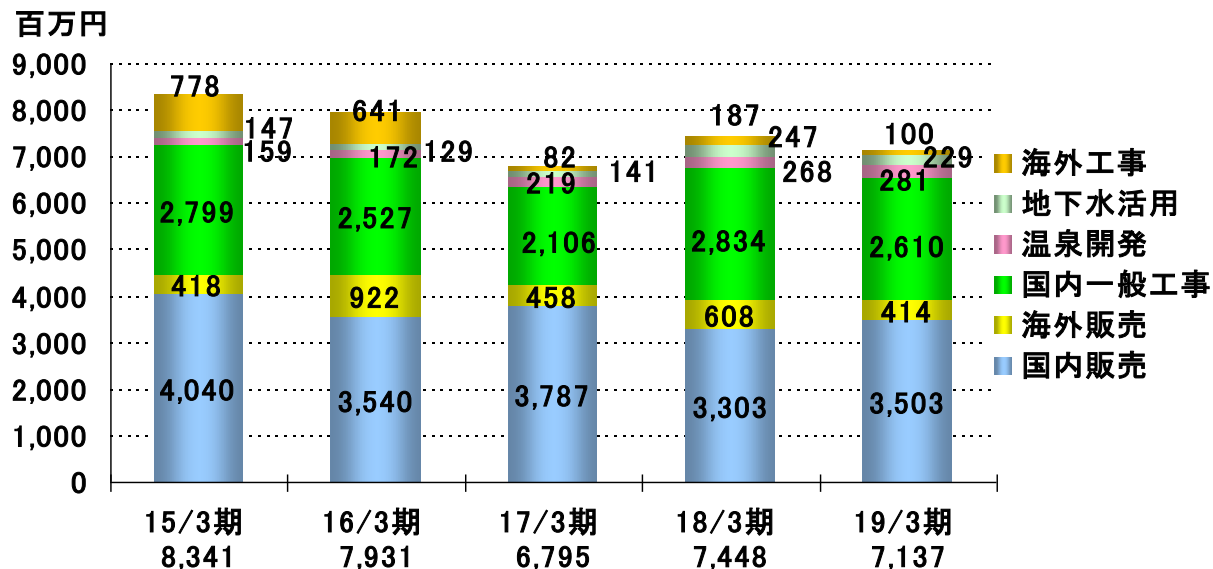
- アジア(6.3%) : 中国、キルギス、ベトナム
- アフリカ(0.9%) : ベナン、モーリシャス
- その他(0.0%) : ロシア

※中国は人命救済機3号機(FS-120CZ)ほか ベナンはJV水井戸給水塔工事



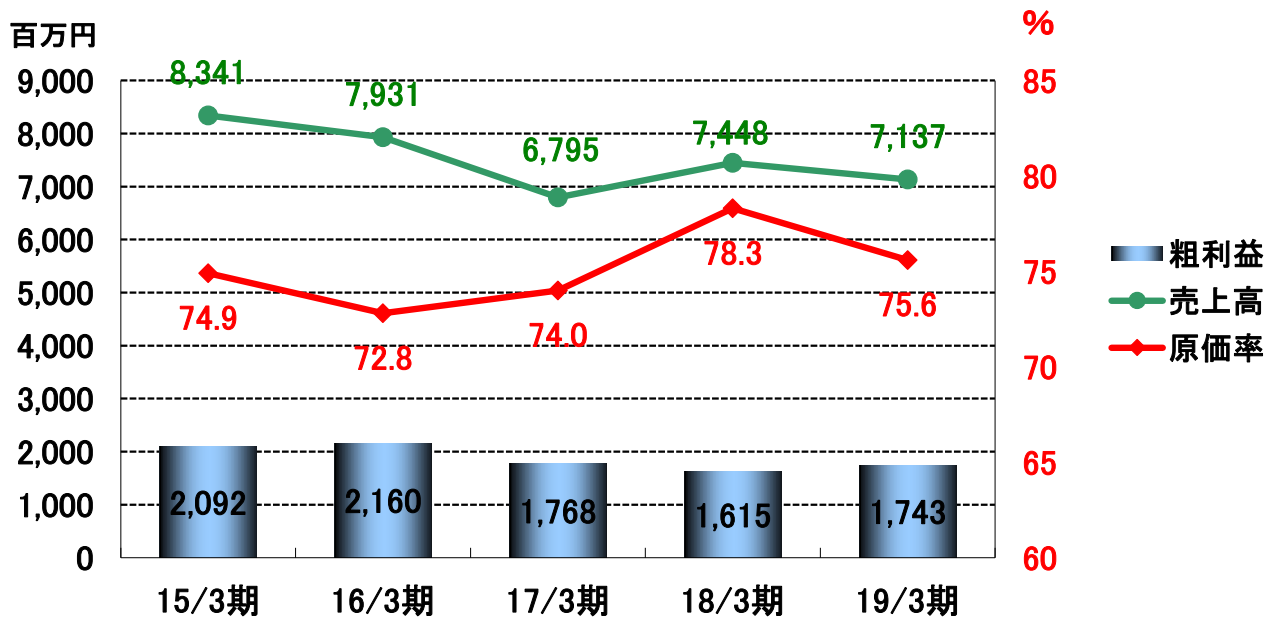
- アジア
- アフリカ
- その他海外
- 国内

- ボーリング機器合計は、前期比5百万円増加
 ～ 国内販売が199百万円増加するも、海外販売が△193百万円減少
- 工事施工合計は、前期比△316百万円減少
 ～ トンネル調査工事及び温泉工事は増加するも、他の国内工事(大口徑立坑掘削、コントロールボーリング、アンカー工事)が減少、前期の特殊工事(サブドレイン掘削工事)の終了も大きな減少の要因。

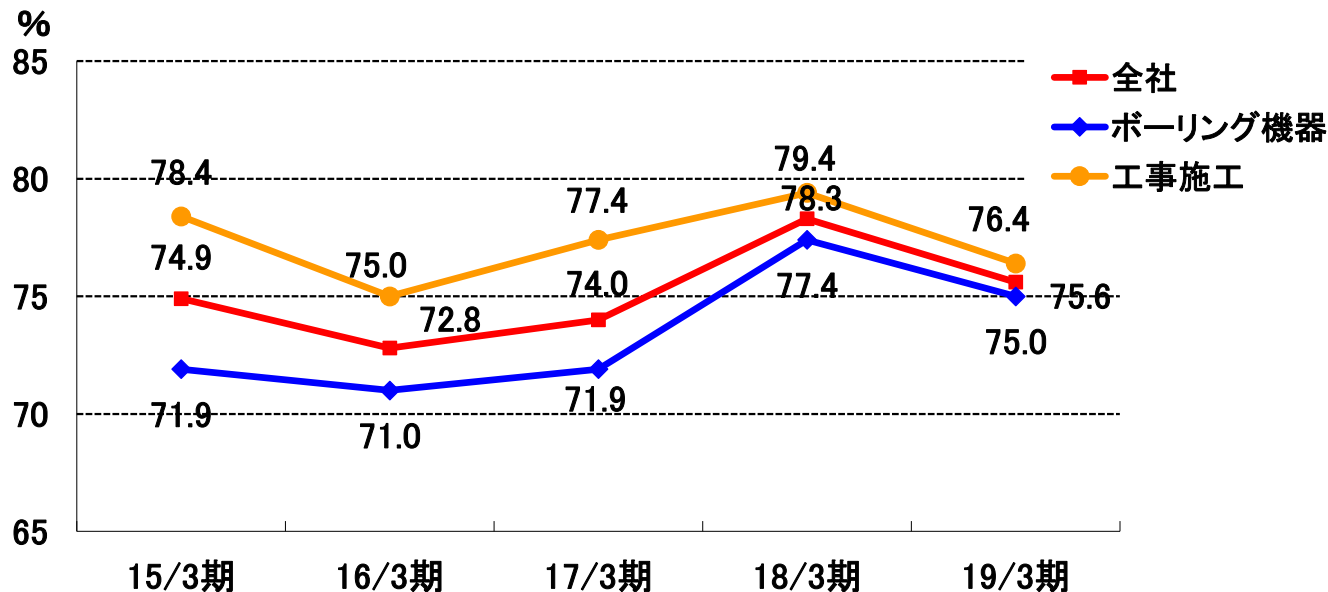


粗利益の推移…前期比7.9%増

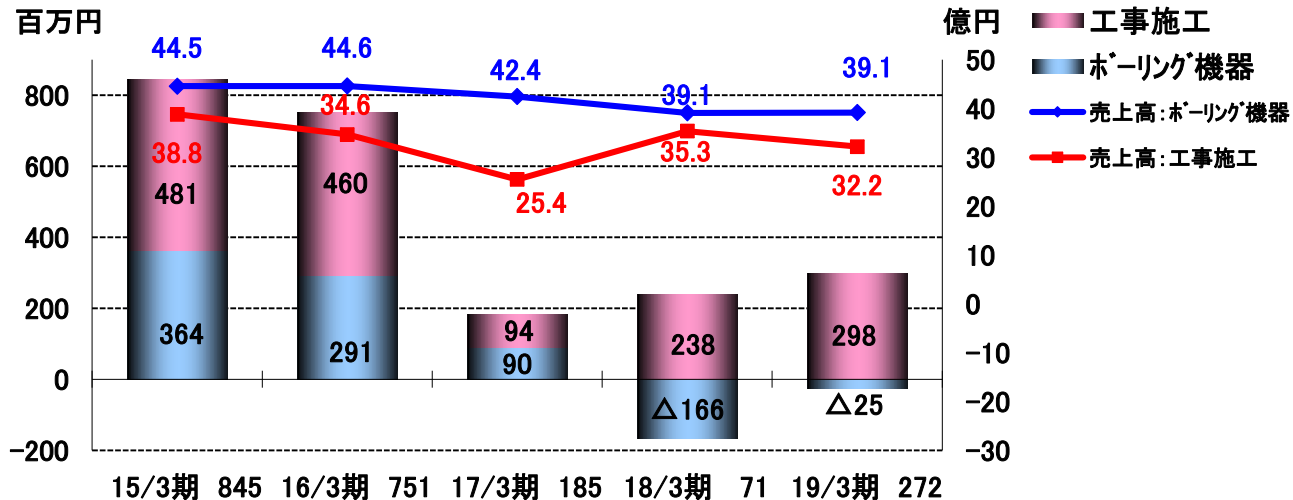
- 粗利益は1,743百万円で前期比+128百万円増
 ~ 売上高は減少(△311百万円)したが、原価率が2.7ポイント減
 ボーリング機器関連にて前期に発生した特機の高原価率を抑制でき△2.4ポイント改善
 工事施工関連は、大型アンカー工事の工期管理・原価管理により原価率が大幅改善し、
 小口ながらもBM工事とコントロールボーリング工事もあり△3.0ポイント改善



- ボーリング機器の原価率は75.0%
 ~ 売上高はほぼ前期並みだが、特機の原価高抑制により△2.4ポイントダウン
- 工事施工の原価率は76.4%
 ~ 完工高は減少したが、原価率は大型アンカー工事と当社国内得意工事
 (コントロールボーリング工事・BM工事)により△3.0ポイントダウン

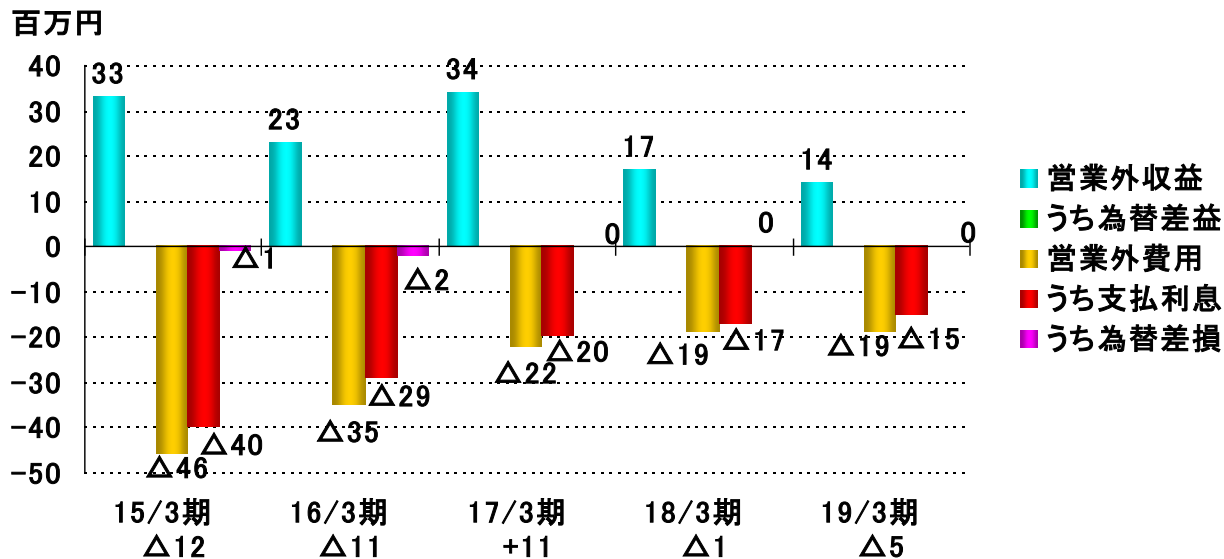


- ホーリング機器関連はセグメント損失△25百万円
 ～ 売上高3,917百万円(+0.1%増)となったが販管費の固定費カバーには至らずマイナス(但し、前期比較だと141百万円の利益増)
- 工事施工関連はセグメント利益298百万円
 ～ トネル先進調査工事、温泉工事に加え、コントロールホーリング工事、BM工事などの完工により売上高3,220百万円(△9.0%減)となったが、大型アンカー工事の好原価率と採算性の良い得意工事(上記のBM工事など)により前期比+59百万円の利益増



営業外損益…NETで5百万円の費用

- 営業外収益は前期比△3.8百万円減の14.1百万円
 ～ 受取保険金3.9百万円、公園管理料1.9百万円、貸倒引当金戻入額1.2百万円
- 営業外費用は前期比△0.1百万円減の19.4百万円
 ～ 有利子負債減少に伴い支払利息が△1.2百万円減少し、15.8百万円に
 海外案件は円建て取引が主な為、外国為替相場の変動による影響はほとんどなし



- 総資産は8,011百万円で226百万円増

- 流動資産122百万円増
～ たな卸資産△87百万円、現金預金△64百万円減少だが、期末の売上増による売上債権(売掛金、完成工事未収入金、電債、受取手形など)297百万円増

- 固定資産は設備投資190百万円に対し、減価償却83百万円実施し、繰延税金資産は18百万円増により全体では103百万円増

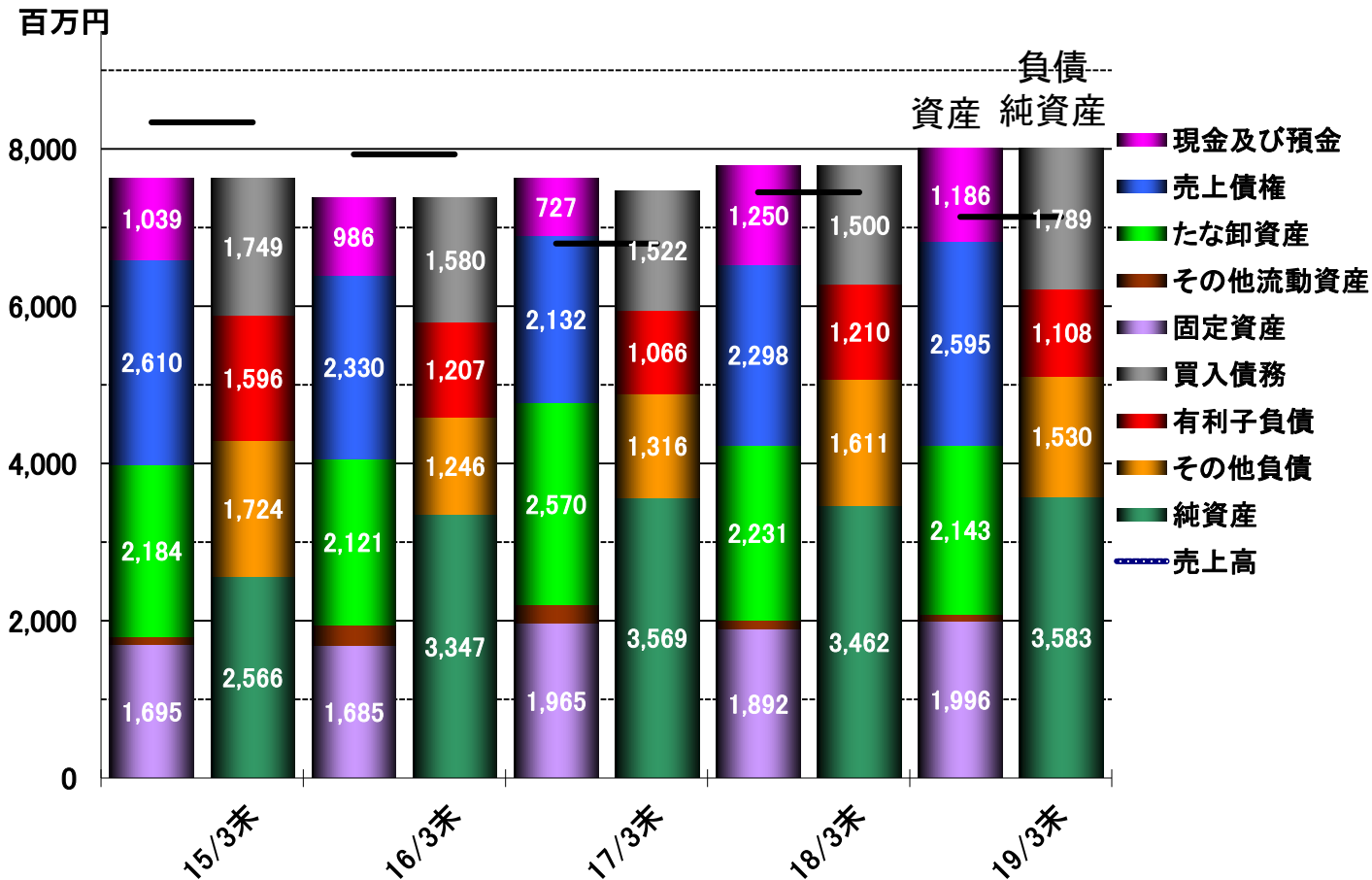
(単位:百万円)

	18年3月末	19年3月末	増 減
現金及び預金	1,250	1,186	△64
売上債権	2,298	2,595	297
たな卸資産	2,231	2,143	△87
その他流動資産	111	89	△22
流動資産計	5,892	6,015	122
有形固定資産	1,497	1,604	106
無形固定資産	25	24	△1
投資その他資産	368	367	△1
固定資産計	1,892	1,996	103
資産合計	7,784	8,011	226

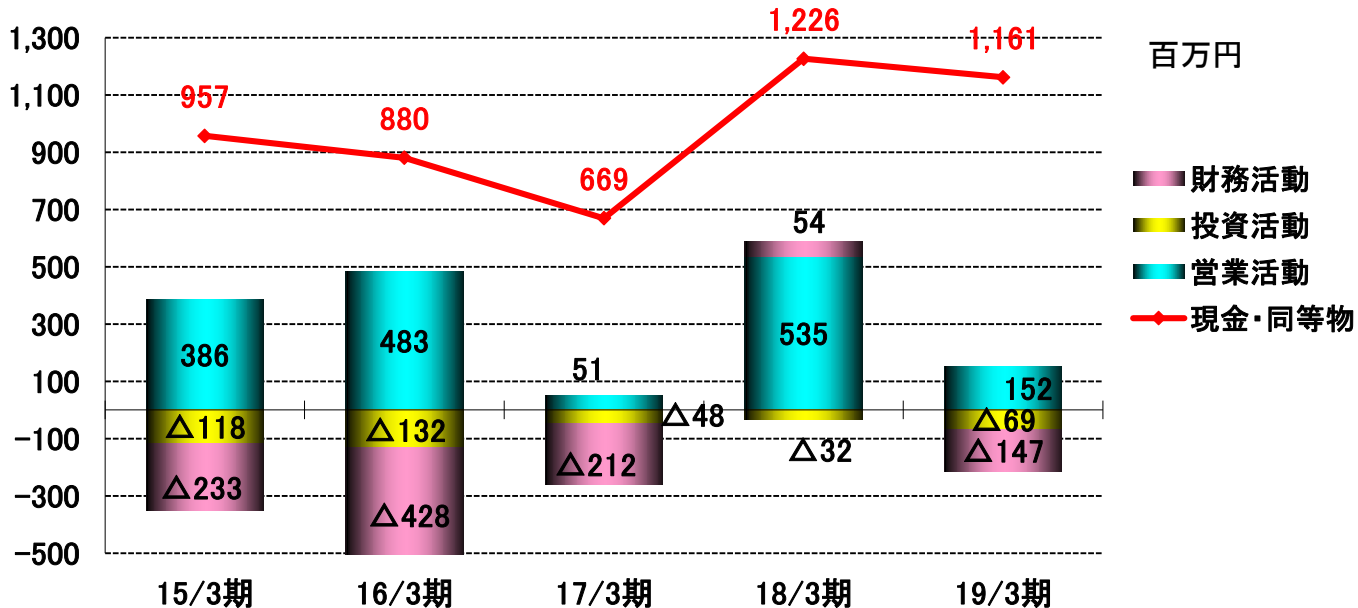
連結貸借対照表の概要(負債・純資産)

	18年3月末	19年3月末	(単位:百万円) 増減
買入債務	1,500	1,789	289
短期借入金	707	770	62
長期借入金	503	338	△164
その他	1,611	1,530	△80
負債合計	4,322	4,428	106
資本金	1,165	1,165	—
資本剰余金	0	0	—
利益剰余金他	2,140	2,275	134
その他包括利益他	145	123	△21
少数株主持分	11	18	7
純資産合計	3,462	3,583	120
負債・純資産合計	7,784	8,011	226

- 負債は4,428百万円で106百万円増
 ～ 買入債務(買掛金・工事未払金、電債権、支払手形など)が期末の仕入増により289百万円増、有利子負債は1,108百万円で△102百万円減
- 19/3末自己資本は当期純利益179百万円計上と配当金44百万円の支払いなどにより113百万円増の3,564百万円(非支配分除く)
- 自己資本比率は、44.5% (+0.2ポイント)
 ROEは、5.1%



- 営業CFは152百万円の資金収入・・・税前利益と仕入債務の増加
- 投資CFは69百万円の資金支出・・・有形・無形固定資産取得89百万円
- (+82百万円のフリーキャッシュ・フロー)
- 財務CFは147百万円の資金支出・・・借入金返済、配当金支払い
- 現金及び現金同等物の期末残高は1,161百万円(前期末比65百万円減少)



資本業務提携契約及びその他の関係会社の異動

資本提携の内容

- ・当社は4月24日付けで(株)エンバイオ・ホールディングス社との間で、資本業務提携契約を締結
- ・本締結に伴い日立建機(株)が保有する当社株式767,000株(8.55%)を同社へ譲渡
- ・これにより日立建機(株)の当社株式保有率は25.66%から17.10%となり、当社は日立建機(株)の「その他の関係会社」の非該当となった(但し、引き続き当社の主要株主)

業務提携の内容

- ・地盤環境に関する新たな技術及びサービスの展開
- ・国内市場における競争力の向上とシェア拡大を図るとともに、新たな成長機会として海外における事業基盤の確保
- ・国内事業において、エンバイオ社が当社の支店・営業所での情報収集を活用した案件発掘と営業力の強化
- ・海外事業において、当社がエンバイオ社の海外子会社等での情報収集を活用した案件発掘と営業力の強化
- ・両社がそれぞれ有する技術を活用して営業力を強化する連携。

■(株)エンバイオ・ホールディングス(東証マザーズ:6092)

・土地の調査・対策から対策後の有効活用までワンストップ・ソリューションを展開

①「原位置調査・原位置浄化※」を特徴とした土壤汚染対策事業

(※汚染された土壤や地下水を、汚染の存在する位置(原位置)の地表またはボーリング孔などを利用して地盤の性質を直接調べ、土壤を掘り出して場外に搬出せずに地中の汚染物を分解・浄化する方法)

②ブラウンフィールド活用事業

土壤汚染地を現状有姿で購入し、土壤汚染対策を実施後売却又は賃貸する事業

③自然エネルギー事業

太陽光発電事業

上記3事業を大きな柱として、国内及び海外(中国、台湾等)で事業展開

- ・2018中期経営計画(2018年度～2020年度)の(2年目)に沿い、引き続き『①粗利率のアップ、②固定費低減、③売上拡大』の夫々の具現策を推進
- ・繰越案件であるリニア中央新幹線関連のコントロールボーリングの機材と同工事の受注・販売を獲得。また、インバウンド効果による温泉工事、大都市開発に伴うアンカー工事、国内最大の石灰山での大型BM工事で売上増加を図る
- ・海外は中国、韓国向けに新型機を投入。特に中国は「一帯一路」政策でのニーズ捕捉
- ・厚木工場リニューアル計画は「2018中期経営計画」での業績回復を見極めて進める

(単位:百万円)

	19年3月期	20年3月期	増 減	
売上高	7,137	8,000	862	12.1%
営業利益	272	290	17	6.3%
経常利益	267	280	12	4.7%
当期純利益	179	200	20	11.3%



ミュージアム鉦研
「地球の宝石箱」